



Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ

- ◆例会日/週火曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
- ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 3 階
- ◆会長 / 橋詰 希望 ◆副会長 / 前田 博志
- ◆幹事 / 黒澤 明男 ◆クラブ広報・情報委員長 / 新井 粒太



2018~2019 年度
国際ロータリーのテーマ

NO. 1446 平成31年2月12日

◆点鐘	橋詰 希望 会長
◆SAA	矢島 栄一 委員
◆ソング	奉仕の理想
◆ゲスト	大井由紀夫様 (八幡宮 副総代長) 小山 悦郎様 (八幡宮 事務局) 吉澤 泰三様 (八幡宮 祭事係)

藤俊さんのトークもあります。私もお会いして被災地を案内していただきましたが素晴らしい人柄の方です。詳しいことは今日お配りしたチラシを見てください。

インターシティミーティングの前日ではありますが、私は参加者との交流会にも参加してこようと思います。一緒に行かれる方はご連絡ください。

【会長挨拶】 橋詰 希望 会長

今日は八幡宮祭事係の皆さまに化粧まわしを贈呈いたします。副総代長の大井由起夫様、事務局の小山悦郎様、祭事係の吉澤泰三様の3人においでいただきました。昨年贈呈しました紅浅間の化粧まわしは6年生の横綱、杉山君が着けて土俵入りしてくれました。今回はロータリーのマークを化粧まわしにしました。矢島さんには作成に当たり大変お世話になりました。今年も土俵入りが楽しみです。八朔相撲の前の日曜日には、準備のために土俵作りの仕事もあります。暑い時期で保存会の方たちも大変ですが、私たちもできるだけ多くの方に参加していただきお手伝いをしたいと思っています。取材で小諸新聞社、コミュニティテレビ様にも来ていただきました。

小諸高校の金管八重奏が、一昨日の10日、日曜日に松本で行われた東海大会アンサンブルコンテストで金賞受賞して、全国大会に進出することが決定したと、高砂佑介先生から報告がありました。一般の部も含め51団体の参加の中で、金賞です。すばらしいと思います。全国大会は3月21日に札幌で行われます。私たちのクラブが小諸高校を支援していることが地区の中でも徐々に認識され、鼻が高い出来事です。今日の理事会でこれからの支援をどうするか話し合います。市街地が低迷して活気のない小諸になりつつありますが、音楽の街小諸をアピールして私たちの奉仕活動を進めていきたいと思っています。

伊美亜監督の一陽来復の映画が今週土曜日に、軽井沢の万平ホテルで上映されます。万平ホテルのロイヤルミルクティと映画で500円です。南三陸ホテルの語り部、伊

【幹事報告】 黒澤 明男 幹事

1. 伊藤雅基がバナーより2018~2019年度地区大会報告書
 2. 伊藤雅基がバナーより2018年度米山奨学生修了式・歓送会について
日時 3月24日(日)
会場 ホテルモンターニュー松本
 3. 東信第一グループ小池平一郎がバナー補佐よりロータリー公共イメージと認知度の向上のPRについて
・信毎「とわいえ」に掲載
 4. 例会変更
上田六文銭RC 4月2日(火) 定刻受付あり
4月9日(火) 定刻受付あり
4月16日(火) 定刻受付なし
4月30日(火) 定刻受付なし
 5. 週報
東御RC
・例会終了後合同理事会
・来週2月19日(火)IM・会員セミナー振替休会
- 【本日の配布物】
週報1445号、ロータリーの友2月号、地区大会報告書

◆出席報告 黒田 説成 委員長

会員数20名	出席義務者20名	免除者0名
本日	出席 15名	
	事前MU 0名	75.00%
前々回(1/29)	MU 0名	65.00%

◆委員会報告

クラブ広報・情報委員会 新井 粒太 委員長
・ロータリーの友2月号紹介

◆ラッキー賞

NO. 4 橋詰 希望 君

橋詰 希望君	八幡宮八朔相撲役員の大井様、小山様、吉澤様、本日は贈呈式において頂き有難うございます。
黒澤 明男君	八幡宮の皆様、ご歓迎申し上げます。
前田 博志君	矢島さん、ありがとう。

小池平一郎君	八幡宮の総代はじめ皆様ようこそ。歴史ある八朔相撲、今年も盛大にできませう事を！
矢島 栄一君	化粧回し贈呈式を無事迎えることができました。
両川 博之君	前は休みました。すみませんでした。花を頂きありがとうございました。

【本日のプログラム】 『化粧回し贈呈式／小諸八幡宮八朔相撲』 (地区補助金事業)



小諸八幡宮 八朔相撲

名称八朔相撲とその起源についての説明。

ここの小諸の八幡宮には、古くから相撲が伝えられており、土俵入りの所作には昔からの古い様式が含まれています。

この相撲は、古文書によると元禄四年(一六九一)に小諸城主石川能登守乗紀(ののかみ)の命により始められたとされていますが、この相撲の起源はもっと古く、慶長十三年(一六〇八)初代小諸藩主仙石氏が北御牧下の城に建立されていた八幡宮を小諸城下与良屋敷跡(八幡小路)に奉遷して、小諸城の守護神とし、人心の掌握(しようあく)と安寧(あんねい)平和で安らかなことを図るため神事相撲を行ったとも伝えられています。

八幡宮の祭典は、世に八幡御祭礼と称し、祭典はもとは八朔八月一日であったが、昔、旧暦を使っていた明治初年(一八六八)九月一日に改められる。

この例大祭(八幡御祭礼)に行われる相撲を「八朔相撲」と呼び、九月一日に行うようになりました。

以前は学校は休みとなりましたが、近年九月初めの日曜日に行うようになりました。

この日相撲に参加する子供たち(昔は、荒町全町の中から六歳から十四歳の子供が選ばれた)は、本格的な化粧回しを締め氏子町内を一巡します。

取組前には、年齢などで分けられた小組、弓引、中組、大組の化粧廻しをした力士による土俵入りが行われます。

行司は年長者の二人(現在は一人)肩衣(室町末期から江戸時代にかけての武士の礼服)福草履に軍配扇を持つ。

普通土俵といえば、四本柱に地固めされた四角四方の中央に丸形の勝負場所をつくるものですが、この土俵は四十二俵を、四本柱が標準となつて丸形に築き、土俵を「蛇の目」として二重に造る因習はそのまま伝わっている。

この異様の土俵は、日本に二ヶ所だけ、一つは奥州南部の角土俵、一つは信州小諸の蛇の目土俵と実に珍しいとの事。

なお、天下に有名な雷電為右衛門が天下の強者と技を戦わした事として、小諸の八幡様の角力と天下に名を博しました。

平成八年三月十五日

小諸市指定重要無形文化財に指定されました。

次週のプログラム:2月19日 IM・会員セミナー振替休会

次々週のプログラム:2月26日 「IM・会員セミナー報告」